

(7) 近畿



近畿地域では、景気は持ち直しの動きが更に緩やかになっている。

- ・ 鉱工業生産はおおむね横ばいとなっている。
- ・ 個人消費はやや弱含んでいる。
- ・ 雇用情勢は依然として厳しい。

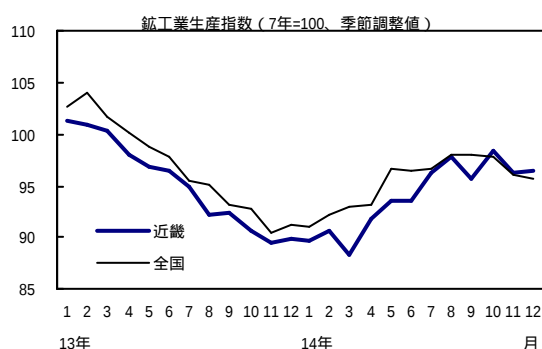
前回調査からの主要変更点

	前回（平成14年11月）	今回（平成15年2月）	
総括表現	持ち直しの動きが緩やかになっている	持ち直しの動きが更に緩やかになっている	↓
鉱工業生産	増加傾向	おおむね横ばい	↓
住宅建設	緩やかに減少	減少	↓
雇用情勢	厳しさを増している	依然として厳しい	↑

1. 生産及び企業動向

(1) 鉱工業生産はおおむね横ばいとなっている。

電気機械は、輸出向けの電子部品や、携帯電話およびその部品が好調に推移しているが、伸び率は鈍化している。一般機械は10月に水管ボイラーが、11月には超硬工具が伸びたことから、引き続き堅調に推移している。化学は、10月に医薬品、写真感光材料が大きく減少したが、11月には減少幅が縮小し、12月は3か月振りに前月比でプラスとなった。金属製品は小動きになっている。繊維は化学繊維を中心にやや減少している。



域内主要業種の動向(季節調整値、前期比増減率) (%)

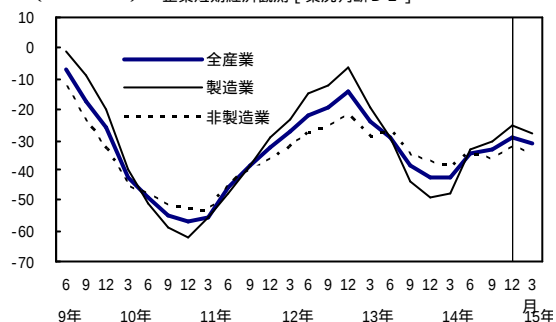
	付加価値 ウェイト	生産		出荷	在庫
		7～9 月期	10～12 月期	10～12 月期	10～12 月期
電気機械	17.7	10.4	5.0	2.9	0.7
一般機械	16.2	1.8	3.9	3.5	1.7
化学	11.8	6.2	▲8.9	▲7.8	1.9
金属製品	7.3	▲8.8	2.8	1.8	6.9
繊維	7.3	0.8	▲0.6	▲4.9	▲0.7
鉱工業	100.0	4.0	0.6	0.0	0.0

(備考) 地域における付加価値ウェイトの高い5業種

(2) 企業動向の業況判断は「悪い」超幅が縮小し、資金繰り判断については「苦しい」超幅が横ばいとなっている。

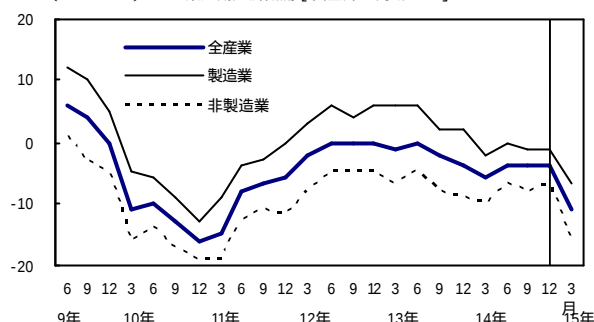
企業短期経済観測調査〔業況判断DI、資金繰り判断DI〕及び中小企業景況調査〔業況判断DI〕

(%ポイント) 企業短期経済観測調査〔業況判断DI〕



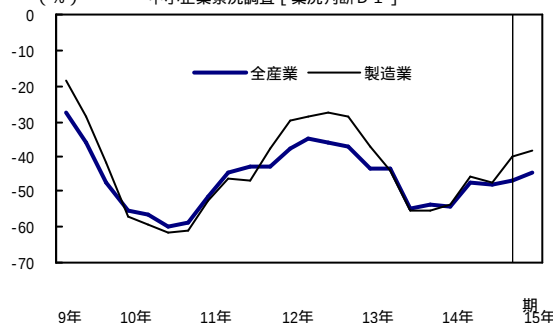
(備考)「良い」-「悪い」回答者数構成比。15年3月は予測。

(%ポイント) 企業短期経済観測調査〔資金繰り判断DI〕



(備考)「楽である」-「苦しい」回答者数構成比。15年3月は予測。

(%) 中小企業景況調査〔業況判断DI〕



(備考)「好転」-「悪化」回答者数構成比。15年 期は見通し。

景気ウォッチャー調査(1月調査)〔企業動向関連(現状判断)〕

「戸建分譲についてはまだまだ状況が悪く、新聞チラシ折込、住宅情報等を媒体として広告しても集客が思うようにいかない(建設業)」など、「やや悪くなっている」とする回答が多くみられた。

(3) 設備投資の14年度計画は前年度実績を下回っている。

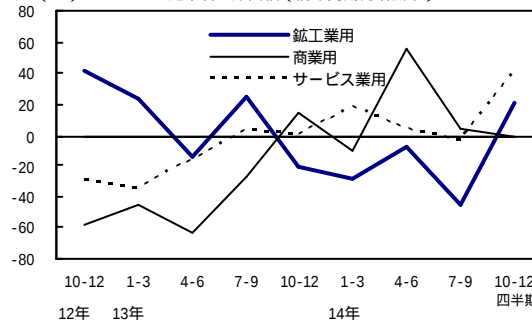
企業短期経済観測調査〔設備投資(12月調査)〕

(前年度比増減率、単位：%)

	13年度実績	14年度計画
全産業	▲12.5	▲6.8(▲1.6)
製造業	▲13.6	▲12.8(▲0.6)
非製造業	▲11.4	▲2.1(▲2.3)

(備考)()は前回(9月)調査比修正率。

(%) 建築着工床面積(前年同期比増減率)



2. 需要の動向

(1) 個人消費はやや弱含んでいる。

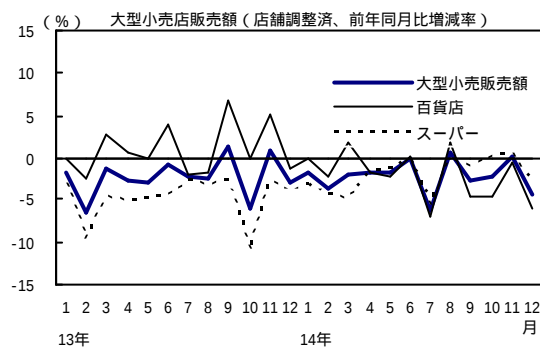
大型小売店販売額及び乗用車新規登録・届出台数

百貨店は、10月は気温が高めで秋冬物衣料が不振だったことから前年を下回った。11月は歳暮商戦の前倒しによりマイナス幅が縮小したものの、12月にはその反動減や年明け後のセールを見込んだ買い控えによりマイナス幅が拡大した。

スーパーは、10月はBSEの影響一巡等により36か月振りに前年を上回り、11月も飲食物品や衣料品が好調だったことから前年を上回った。その後12月は飲食物品がマイナスに転じたことから前年割れとなった。

景気ウォッチャー調査(1月調査)[家計動向関連D I(現状判断)]

「前半は福袋の強化、バーゲンの前倒しにより売上も好調であったが、後半は売上、来客数とも伸び悩み前年割れとなった(百貨店)」など、「変わらない」とする回答が多くみられた。

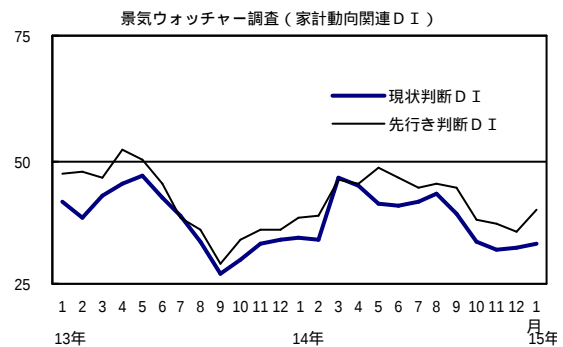
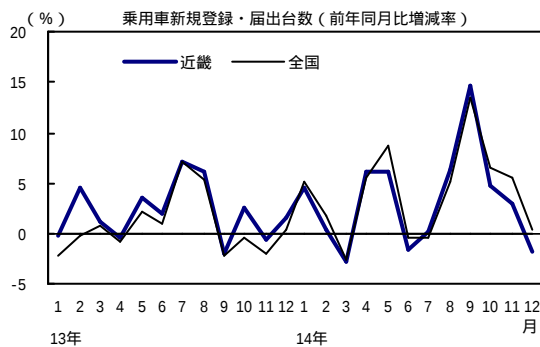


(前年同月比増減率、単位：%)

	14年1-3月	4-6月	7-9月	10-12月
大型小売店	▲2.3	▲1.1	▲3.0	▲2.4
百貨店	0.0	▲1.1	▲3.9	▲4.0
スーパー	▲4.0	▲1.0	▲2.3	▲0.9
乗用車	▲0.2	3.1	7.0	1.9
景気ウォッチャー	38.1	42.2	41.0	32.4

(備考) 1. 大型小売店販売額は店舗調整済。

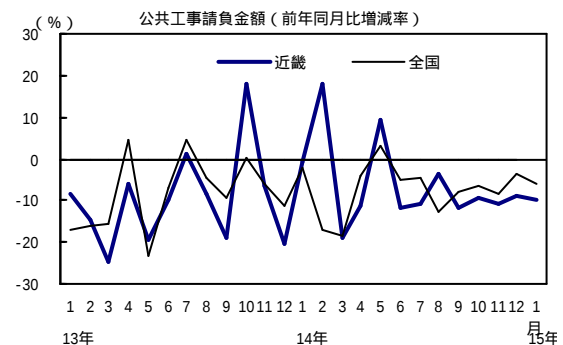
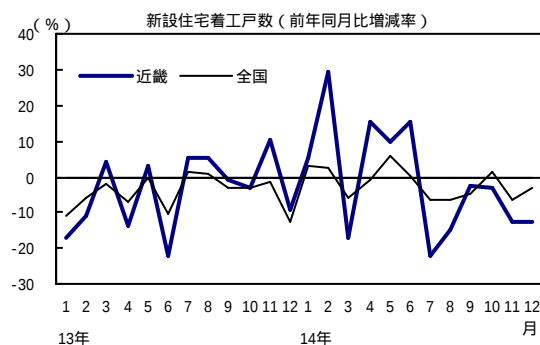
2. 景気ウォッチャー調査の数値は家計動向関連の現状判断D Iの3か月単純平均



(2) 住宅建設は減少している。

分譲が前年を大幅に下回ったことから、全体でも前年割れが続いている。

(3) 公共投資は年度累計でみると前年を下回っている。

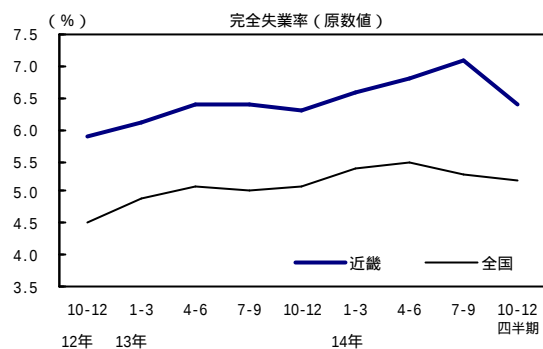
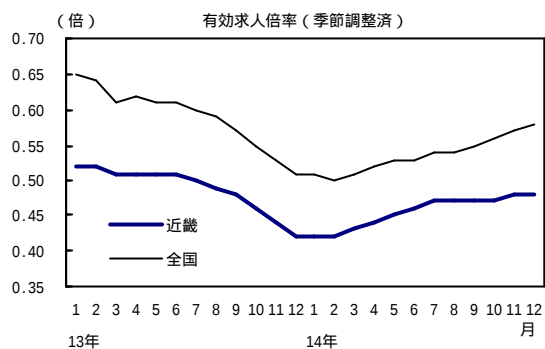


3. 雇用情勢等

(1) 雇用情勢は依然として厳しい。

有効求人倍率及び完全失業率

有効求人倍率は、おおむね横ばいとなっている。完全失業率は、前年同期を上回っている。



景気ウォッチャー調査(1月調査)[雇用関連(現状判断)]

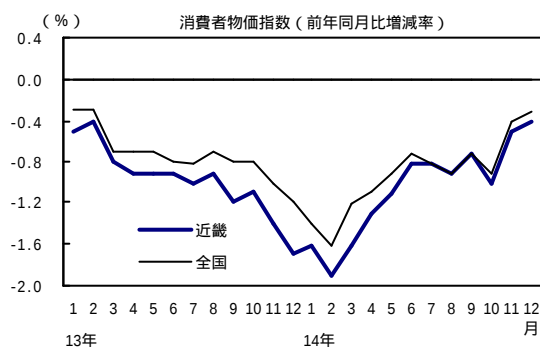
「中高年齢者の離職理由が、自己都合より会社都合によるものが上回っていることから、企業が中高年齢者のリストラを継続実施していることがうかがえる(職業安定所)」など、「変わらない」とする回答が多くみられた。

(2) 企業倒産は件数は減少しているものの、負債総額は増加している。

(3) 消費者物価指数は下落幅がおおむね横ばいとなっている。

企業倒産

	(件、億円、%)				
	14年1-3月	4-6月	7-9月	10-12月	15年1月
倒産件数	1,084	1,082	1,084	1,031	301
(前年比)	3.1	2.3	▲0.9	▲14.9	▲15.7
負債総額	8,549	6,759	5,243	7,116	2,378
(前年比)	▲40.8	8.3	▲81.4	23.1	2.0



○ 景気ウォッチャー調査(1月調査)[合計DI(特徴的な判断理由)]

<現状>

・秋冬物のヒット商品がなく、バーゲンの売行きが悪かった。客単価の低下により売上が伸び悩んでいる(衣料品専門店)。

<先行き>

・マンションの供給が過剰になってきているため、今後マンションが売れなくなると商業地の買い手がなくなり、なお一層土地の価格が下落する(不動産業)。

